

資料1

平成 26 年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	聴覚障がある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、豊かな心とたくましく生きる力を育てる。	今年度の重点目標	1 確かな学力の定着を図る学習指導の充実 2 自立と社会参加をめざしたキャリア教育の充実 3 豊かな自己表現力の育成 (コミュニケーション力の向上)
-------------------	--	----------	--

評価項目	評価の具体項目	年 度 当 初			評 価 結 果 ()月		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
確かな学力の定着を図る学習指導の充実	(地) ①個々の発達に応じて言語の獲得・拡充を図る。 ②在籍園・在籍校と連携し、その子に応じたよりよい支援を提供する。	障がいや発達の状況等に応じた環境設定が難しく、幼児・児童・生徒の困り感が、十分には理解できない保護者がいる。	①個々の発達に応じた言語活動の充実に向けた指導・支援の工夫をする。 ②在籍園・在籍校との日々の連携を図る。	①聴力測定や発達検査等を行い、その子に応じた支援方法を考え、本人、保護者、担任等に伝える。 ②幼児・児童・生徒の実態や在園・在籍校のニーズをふまえ、理解学習等の研修や日々の学習について支援する。			
	(幼) 直接に触れる体験ができる環境や機会を設定する。	経験が不足していたり、情報が入りにくかったりして、興味・関心がせいまい。	いろいろな事象に興味・関心を持ってかかわる。	①身近な事象に興味を持てるように、掲示物等を工夫する。 ②継続的に興味や関心を持てるような題材を工夫する。			
	(小) 児童が意欲的に学習し基礎学力の習得ができるよう児童の実態に応じた指導を工夫、改善する。	既習事項の確認や教室環境の工夫により、学力が定着しつつあるが、読解力に課題を持つ児童が多い。	児童の実態に応じた授業改善を行い、児童が意欲的に学習をすることができるようになる。	①授業の始めに既習事項の確認を行う。 ②授業記録をもとに、学部全体で共通理解を図り、指導や支援方法を考える。 ③授業改善のための授業研究会を行う。 ④発達検査等、児童の実態把握を行い、学部全体で共通理解を図る。			
	(中) 考える力を育む支援の工夫や教科指導の充実によって、主体的に学習しようとする態度を育てる。	学習内容の定着に時間を要する面があるが、考える時間を確保し、視覚的支援を工夫したり、具体的に体験と結び付けて説明したりすることによって、学習内容を少しずつ理解していくことができる。	学習内容を理解し、課題に対して自ら考え判断し、自主的に取り組もうとする。	①授業において、考えるための時間を確保し、支援を工夫する。 ②視覚的支援を用いて、具体的にわかりやすく学習内容を提示する。			
	(高) 自学自習の力をつけるために、個々の生徒に応じた学習指導法の改善・工夫をするとともに、家庭学習の習慣化の徹底を図る。	家庭学習の時間が1時間未満という生徒もあり、家庭学習が習慣化していない実態がみられる。学習への動機づけと同時に日々の授業において、その指導法を工夫し、生徒の主体的に学習に取り組む姿勢を培う必要がある。	家庭学習については毎日、最低2時間以上の家庭学習を全生徒が行い、年度当初より家庭学習時間を3割増加するようになる。	①家庭学習の内容や時間の確認を継続して行い、個に応じた家庭学習の仕方を具体的に指導する。 ②個々の生徒のつまずきや特性に応じた課題を共通認識し、指導法を工夫するための授業研究を行う。			
自立と社会参加をめざしたキャリア教育の充実	(地) ①保護者や本人が障がいを理解したり適切な進路選択を選択したりできるように支援する。 ②個々の状態に応じた聴覚障がいの理解学習等に関する教職員の研修を行う。	保護者も本人も障がいの受容ができず、悩んでいることがある。聴覚障がい児に対する理解が十分とは言えない状況にある幼児・児童・生徒がいる。	①本人や保護者の気持ちを大切にしながら、進路について適切な情報提供や研修を行う。 ②保護者や家族、教職員等、聴覚障がい教育に関する研修を行う。	①自己理解を高めるような学習を進めたり、ともに進路について考えられるように研修を実施したりする。 ②幼児・児童・生徒や保護者、在籍園・在籍校のニーズに応じた研修会を計画的に開催する。			
	(幼) 社会生活における望ましい態度や習慣が身に付くように、幼児の実態に応じ、工夫して支援する	基本的な生活習慣や生活のきまり、遊びのルール等がまだ身に付いていない。	基本的な生活習慣や生活のきまり、遊びのルール等が身に付く。	①できた時、何が良かったのか分かるように称賛する ②やり方が分かり、意欲が高まるような教材を工夫する。 ③友だちとかかわる中で、ルールの定着を図ったり意欲を高めたりするような場面を設定する。			
	(小) 基本的な生活習慣の定着を図り、社会生活における望ましい習慣や態度を育てる。	基本的な生活習慣、学校生活のきまり等についての指導が必要な児童が多い。	児童の実態に応じた指導を行い、児童がきまりよいあいさつ、返事、報告や質問などができるようになる。	①児童の実態に応じ学級活動等で取り上げて指導をする。 ②合同学活等の集団での学習の際に指導する。 ③場面をとらえて適切な行動がとれるよう、声かけを行う。			
	(中) 職場見学・職場体験学習・個人面談を通して、中学部以降の進路への意識を高める。	将来の生活・職業への大まかなイメージはあるが、中学部以降のはっきりとした進路は決まっていない。体験入学や職場体験学習などの具体的場面を通して自分の生き方について判断することが少しずつできてくると考えられる。	体験入学や職場見学・職場体験学習を通して、自ら中学部以降の進路について考え、判断することができる。	①職場見学・職場体験学習・体験入学の際には事前に様々な情報を伝え、生徒が具体的なイメージを持って職場見学等に臨むことができるようにする。 ②職場体験学習の際には、一人一人の成果と課題を明確にし、生徒と進路について話し合う時間を持つ。			
(高) 常に社会自立を意識させる生徒指導を徹底を図り、自己管理能力を育成し、規律ある生活習慣を身につけるようにする。	ほとんどの生徒はきまりを守り生活できているが、一部生徒に精神面に課題があり、時間規律が身につけていない実態もある。また、まず自分で考えて行動する習慣が身につけていない現状もあり、社会自立に向けてさらに自ら考え行動する生活習慣を確立させる必要がある。	①将来の社会生活を意識しながら、規律を守り、学校生活を送る。 ②自己の特性を知り、課題を主体的に解決する。	①朝の会での目標設定を活用し、生徒が課題意識をもって生活できるように、全教職員で共通認識し、指導を周知徹底する。 ②自立活動等において、自己の特性を見つめるなど、キャリア発達支援段階表を活用し、組織的にキャリア教育を推進する。				

豊かな自己表現力の育成 (コミュニケーション力の向上)	(地) ①発達に応じた補聴器等の適切な装用と管理が定着するよう家庭や在籍園・在籍校との連携を図る。 ②コミュニケーション力の基礎を育成し、他者とのかかわりたいという意欲を育てる。	障がいがあることで他者とのかかわりが消極的になってしまうことがある。	①家庭や学校等と連携を密に図る。 ②本人の気持ちを受け止めながらよりよいかかわりのモデルを示す。	①相談や連絡帳等を通して、保護者や学校等と丁寧な連携を図る。 ②個別や集団等学習の形態を工夫したり、他者と楽しんでかかわれるような活動を計画したりする。		
	(幼) 心の動きを大切にし、表現力を高める指導を工夫する。	自分の思いを伝えたい気持ちはあるが、その気持ちを伝えることが難しい。	朝の会の伝え合い活動で幼児が思いを表出したり話しかけを受容したりできる。	①幼児の思いをくみ取り、表現できるように支援する。 ②話しかけが理解できるように実物や絵等を提示する。		
	(小) 友達との活動を通して、自分の思いや考えを伝え合える力を育てる。	①「聞くとき、話すときのルール」を教室に貼っているが、それを参考に話し合うことが少ない。 ②聞く姿勢や話すときのルールがまだ身につけていない児童がいる。 ③わかっていなくても聞き返さない児童が多い。	個に応じた指導を行い、話し合いのルールを意識して話したり聞いたりすることができるようになる。	①実態に応じて、学習における話し方、聞き方のわかりやすいルールを設定する。 ②具体的な伝え方の例を教員が示したり、事前に練習をしたりして、自信を持って伝えることができるようにする。 ③ルールを各学習場所に掲示し、いつでも確認できるようにして、児童に意識づける。		
	(中) 様々な集団活動において伝え合い活動を工夫し、生徒の自分の思いを伝えようとする意欲を高める。	語彙力や表現力が弱い傾向にあり、周囲の状況を把握し相手の思いを推し測って発言するという積極的なコミュニケーションには至っていない。しかし、周囲の人に自分の思いを表現したいという意識は高まってきている。	自信を持って自分の思いを相手に表現しようとする。	①報告会・弁論大会を通して、自分の思いを明確にし表現する機会を持つ。 ②自立活動（語彙テスト・手語表現等）を通して、日常生活・学習の中から多くの語句を選択して意味理解を促し、また、豊かな表現方法を提示する。 ③総合的な学習（ステージ発表）を通して、生徒が仲間と思いを伝え合う機会を意図的に設定する。		
	(高) 職場見学や現場体験学習等を活用し、社会を意識した体験的学習の充実とコミュニケーション力を身につけることができるようにする。	実際に仕事を進めたり、職場の人間関係を円滑にしたりするためのコミュニケーションが必要であることを具体的に生徒が理解できていない実態もある。体験的学習の充実させることでコミュニケーション力を身につける必要性が実感できるようにすることが課題である。	①他者の考えや立場を尊重して受け止め、自分の考えを愛的に的確に伝えることができる。 ②他者と場に応じた適切なコミュニケーションを図ることができる。	①集団の学習の中で考えや意見を交換し合う場面を設け、継続して取り組んでいく。 ②現場体験学習で明らかになった個々の生徒の課題を明確にし、自立活動等で取り上げるとともに、学校生活全般でコミュニケーション力を身につける具体的、継続的な取組を行う。		

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%） C：変化の兆し（60%） D：まだ不十分（40%） E：目標・方策の見直し（30%以下）